

まさに駅前コンフォート（快適の意）

■頼もしい

シルバー・パワー

駅前イルミネーションの準備、飾りつけの主体は「矢板まちづくり研究所」だが、これを全面的に応援しているのが市民活動グループ「矢板駅前コンフォート（鈴木幸市代表・会員43名）」。

■理念は

駅前の活性化

「JR矢板駅を乗降する人や、車で通行する人を元気づけている」「休日には親子連れで、平日は通りがかりに、カメラや携帯電話で写真を撮って行く人がかなりいる」そんな話を聞きたびに、このイベントの作業に参加でき

たことに、メンバーは喜びを感じていると話している。今ではこの催しの実働部隊としては欠かすことが出来ないほどで、セッティングの途中でもこんなが良いとか、次はどうしようとか、一体になって作業をしている。

■「M」

の会員でもあることが理由だが、なによりも、駅前の活性化と各種ボランティア活動への応援、協力を行うことを趣旨として設立されたことが大きい。そのため、会員は応援するという意識はなく、自然に「まち研」と共同で行動しているのが実態だ。

■矢板駅前コンフォート、こんな事もやっています！

平成21年10月に設立された同会。今年度からは「ミニ雑学研究所」と銘打って、ほぼ毎月講演会を開催。雑学の文字の通り幅広い範囲の講師をお呼びしている。矢板駅前活性化のための企画のひとつ「大人のたまり場づくり」の行事で会員だけでなく、だれでも参加できる。

1月26日には塩谷病院の病院長「江口先生」の講演が予定されている。〈問い合わせ〉電話43・3599（増田）



苦心の作・矢板スカイツリー

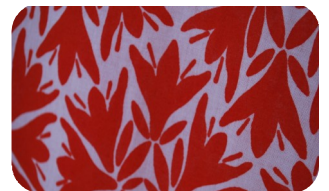
行動と出会いでまちが変わっていく
ヤイタカラプロジェクト

■動く人と出会う

駅前イルミネーション設置の際に「昼間も盛り上げたいので、何か飾り付ける案はないか」と矢板まちづくり研究所代表の高柳さんに相談を受け、今回の参加となったヤイタカラプロジェクト（代表、佐貫薫さん）。



↑ 植木鉢に見えるかな？



ツツジをデザイン

矢板の宝を発掘、新しく創り全国に発信しようと、昨年五月に立ち上げた同プロジェクト。八月に山の駅たかはらでイベントを開催。その際、参加者に手ぬぐい染め体験をしてもらい、それを十月に矢板駅前に展示した際に二人が知り合ったのがきっかけだ。

横田さん・加藤さんがデザインし、近くで見るとツツジ、遠くから見ると赤と白のクリスマスカラーの植木鉢となっている。まさに矢板の宝物を作りデザインする、ヤイタカラプロジェクトのコンセプトに

■「縁を大切に

「横田さん加藤さんとの出会い、高柳さんとの出会いがあればここまでのは出来なかった。人との出会いと行動がいかに大切かということを実感した」と佐貫さん。「今後は、イルミネーションがご縁で知り合った、まちづくり研究所や駅前コンフォートのみなさんとも連携を図りながら、『矢板ってなんだか面白いことやってる！』と、外から人が来てくれる『矢板を元気にする』まちづくりを話していきたい」と、意気込みを語ってくれました。

■矢板の宝で

クリスマスasmusを飾る

山田の古民家を拠点に全国で活躍しているアートディレクターの横田さん・加藤さんご夫妻も同プロジェクトの主要メンバーだ。

メンバー内で議論をしたところ「矢板といえはリンゴ」となったが、なかなかデザイン

ディレクターの加藤さん自らも参加しての制作中の様子



(T・M)